



スポーツともだち仲間たち



Saitama Junior Sport Clubs Association



埼玉県スポーツ少年団 コンセプトムービー

60周年を記念事業として作成したコンセプトムービーが完成しました。是非ご覧ください。



No. 63

上段：寄居町スポーツ少年団
下段：吉川市鳳武館（ほうぶかん）

本格的な団活動再開にあたって

コロナが第2類から第5類に移り、制限された運動の在り方も従前に戻ってきています。そんな中でも、相変わらず聞かれるのは、強豪校におけるパワハラや体罰的な指導方法です。その根底には勝利至上主義の思想や発想があることは言うまでもありません。また、「強い口調や叩かれてきた指導者は、自分が受けたことと同様の指導を行う」ともよく言われています。

現在スポーツ少年団では、指導者資格の制度変更に伴い、指導者の皆様への研修を充実させています。これまでの経験をそのまま子どもたちに伝えるのではなく、指導者自身が学び続ける環境の中で、時代に合わせて指導方法をアップデートさせることが求められているのです。子どもたちが「スポーツの楽しさ」を感じながら心と体を育むという少年団の理念を軸に、様々な学びの場を積み重ねていただきたいと思います。

スポーツ指導の在り方も大きく様変わりしている現在、本格的な子どもたちへのスポーツ指導再開に当たっては、改めて指導の仕方と子どもとのかかわり方について考え、日々の活動を充実させてほしいと思います。

特集

- ◎ リーダー会をつくろう
- ◎ ACP
(アクティブ・チャイルド・プログラム)

手続きはお済ですか？ 指導者資格制度の移行

令和5年度年間事業計画

埼玉県スポーツ少年団だより

2023年（令和5年）5月31日発行

スポーツくじ



本紙はスポーツ振興くじ助成金を受けて作成しております。

この情報誌は各単位団へ3部ずつ配布しています。指導者・母集団で回覧しましょう。

発行元：公益財団法人埼玉県スポーツ協会埼玉県スポーツ少年団

01 リーダー会をつくろう

単位団の中でリーダーが育ったら、リーダーのネットワークをつくり、リーダー会を設立しましょう。

リーダーを育てるためには、単位団での指導者の補助的な活動の他に、リーダーが、地域や市区町村の規模で集まり、リーダー自身の資質の向上を図ったり、情報交換を行ったりするなど、活動を深めることも大切です。単位団の活動からだけでなく、自分たちでの実践活動を通して多くのものを学ぶ絶好の機会となります。初めは、指導者が牽引する場面もありますが、徐々に企画・運営をリーダーに任せ、自主的な活動をさせていきましょう。

なぜリーダー会を設置するのか

リーダー会とはリーダーによるリーダーのためのスポーツ少年団内の組織です。

リーダーがそれぞれ所属している団活動を基盤にしながら、同年代の仲間とともにスポーツに親しみ、スポーツ少年団の行事を支援することで交流を深め、自発的に研修していくこうとする場がリーダー会です。

中学生や高校生だけの自発的なリーダー会づくりは期待したいのですが、スポーツ少年団として望まれる組織づくりにならないこともあります。そこで、市町村スポーツ少年団の本部や事務局などで担当者をきめ、リーダー活動の質を高める指導や援助をしていく必要があります。

リーダー会設立のためには、周りの大人のサポートが不可欠です。



リーダー会には、理解あるアドバイザーが必要です

リーダーは、社会経験に乏しく、指導者の方々と上手にかかわる術を知りません。スポーツ少年団の知識や団員への指導技術が未熟でもあります。また、学業や単位団活動の両立、プライベートでの悩みも抱えるこの年代には、応援してくれる理解者、頼れるアドバイザー（＝育成担当者）の存在が欠かせません。

- リーダー、リーダー会を育てようとする情熱がある
- スポーツ少年団の理念とリーダーの必要性を理解している
- リーダーを理解し、活かし方を知っている
- 市町村スポーツ少年団との連携を図れる
- リーダーに寄り添いながら、リーダー、リーダー会の成長を促せる

毎年、新旧のリーダーが入れ替わるという不安定なリーダー会です。長年にわたって携わることのできる複数の育成担当者がいることが望ましいです。

中学生以上の登録団員を確認しよう

市町村には、中学生以上の団員登録者はどれくらいいるのでしょうか。リーダーのネットワーク、リーダー会の設立を目指すには、その把握からスタートです。市町村事務局で登録状況の確認ができるはずです。指導者や母集団が多く集まる機会（総会や委員会・指導者協議会等）にリーダーについて語り（多くの指導者は「リーダー」について詳しく知らないのが現状です）、リーダー活動に関する理解を得ながら、登録状況を確認することもできると思います。0（ゼロ）からのスタートです。地道な活動が必要になります。

- ◆ 事務局で登録状況を調べる
- ◆ 指導者の集まる機会に調べる

中学生以上の団員を集めて、レクチャーしよう

中学生以上の団員が登録されている団が把握できたら、その単位団に直接「リーダー集合」の案内を送ってみましょう（もちろん、事前に本部とは確認を済ませて）。おそらく、多くの中学生以上の登録団員は、「リーダー」ということを意識せずに活動している場合が多いのが現状です。そんな団員を集め「リーダー」についてのレクチャーをする機会を設けてみたらどうでしょうか。



内容的には、出会い・交流を大切にしたレクリエーションを中心としたスポーツ少年団やリーダーについて簡単に理解してもらう程度でよいかと思います。1度ではなく2度開催(内容は別なものに)することで、参加しやすい状況をつくり、関心の高さを測ることができます。

- ◆ 交流を目的としたレクリエーション
- ◆ スポーツ少年団について
- ◆ リーダーについて

どれくらい集まるかは、指導者への事前の「リーダー」についての周知にかかっています。

リーダー会の設立

ある程度のメンバーが集まったら、いよいよリーダー会の設立です。まず、次のことに着手しましょう。

規約づくり

リーダー会が独立した性格をもち、スポーツ少年団の事業の一環であるということを社会的に位置づけることが絶対に必要です。規約に基づきしっかりと組織をつくりましょう。

年間予算

リーダー会活動を各級スポーツ少年団の事業として位置づけ、自らの組織の確立と活動を推進するために、リーダー会自体が年間予算をもつべきです。各スポーツ少年団の補助金によって運営されることが望されます。

年間活動計画

実現可能な年間計画を作成しましょう。計画を立てるべきは、以下の3つに配慮すると良いでしょう。

- ① リーダー会構成員の総意に基づいた自主的活動計画であること
- ② 年間を通して行える活動計画であること
- ③ 研修・スポーツ・奉仕活動・交流活動などバラエティに富み、リーダー自身の資質向上と楽しみが内容に盛り込まれていること



リーダー会を上手に運営するためには

現代の中学生や高校生にとって、スポーツ少年団のリーダー活動のどこに魅力があるのかを検討し、リーダー規程の趣旨と照らし合わせて絶えず活性化していく努力が必要です。

運営上のポイントは、『リーダー会の主役はリーダー自身である』ということです。リーダー会はリーダーによるリーダーのための会です。あくまでもリーダー会構成メンバーの総意によって運営される活動が基本であり、リーダーの自主性を重んじ、「自分たちのリーダー会」という意識をもたせることが必要です。

<リーダーの活動基盤は単位団である>

スポーツ少年団の活動の基本は日常の単位団活動にあります。単位団の活動基盤を持ちつつ、同年代の仲間が互いにスポーツを楽しみ研修する場としてのリーダー会が理想的な姿であり、特別なエリート集団ではありません。リーダーは単位団の中で団員とともに活動することに意味があり、アウトリーダーだけで終わることのないように注意したいものです。

<リーダー会は奉仕団体ではない>

リーダーに活動の場を提供する際、研修会、交流会等の運営補助の役割が中心になります。研修の意味で非常に重要な役割ではありますが、常に補助員としての活動だけでなく、リーダー会が企画・運営に主体性をもって参画し、研修のできる体制をつくってください。

<リーダー会の相談役を置く>

リーダー達の自主性に基づいて運営される会ですが、メンバーは皆若く経験も少ないことも事実です。行き詰まりを感じたり、スランプに陥ったとき親身になって面倒を見てくれる先輩のアドバイスは欠かせません。リーダー達の年齢に近い良き指導者を置くことによって、会の運営が成功した例も報告されています。

<他のリーダー会との積極的交流を>

県内外を問わず、積極的に他のリーダー会との交流をはかり、親交を深めてください。同年代の若者の交流は、互いに刺激しあい影響を与えるものです。また、合同研修などは、地元開催地の指導者や団員との交流も同時に行えるような幅広い機会にしてみてください。

「スポーツともだち 仲間たち」では、これまでNo.59号から4回にわたって、リーダーに関する特集をお届けしています。是非過去の情報誌も併せてご覧ください。



本紙でも過去数回に渡り特集でお伝えしている『アクティブチャイルドプログラム（以下、ACP）』は日本スポーツ協会が作成した楽しみながら身体を動かすためのプログラムです。ACPは幼児期から取り入れることができます。幼児期から児童期は神経系機能が著しく発達します。この時期に多様な動きを経験して様々な基礎的な動きを身につけたいものです。

今回の特集では、投げる動作に着目し、いくつかの種目を紹介します。今後の団活動でのウォーミングアップや、団員募集などの体験の際、レクリエーションとして取り入れてみてはいかがでしょうか。

● 基礎的な動き

基礎的な動きには立つ、座る、起きる、歩く、走る、跳ぶ、登る、投げる、捕る、蹴るなどが挙げられます。

多くの大人たちは様々な動きをスムーズに行っています。これは子どものときに多様な基礎的な動きを経験して身につけてきたからと言えます。

しかしながら、発達段階の子どもたちは上手く体を動かすことが出来ない場合があります。幼児期から児童期は神経系機能などが著しく発達する時期なので、この時期に多くの運動刺激を受けることで基礎的な動きを身につけていくことが出来ます。

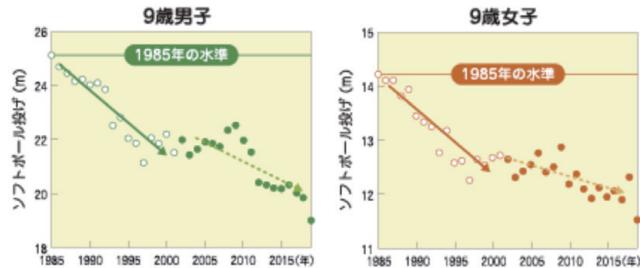
● “投げる”動き

現代の子どもたちにおいて基礎的な動きである“投げる”は20年以上に渡り低い水準で推移しています。

投げる動きは下半身で作り出したエネルギーを上半身を通じてボールに伝える運動であり、日常生活ではなかなか取り入れることが難しい動きです。

子どもの体力・運動能力の推移

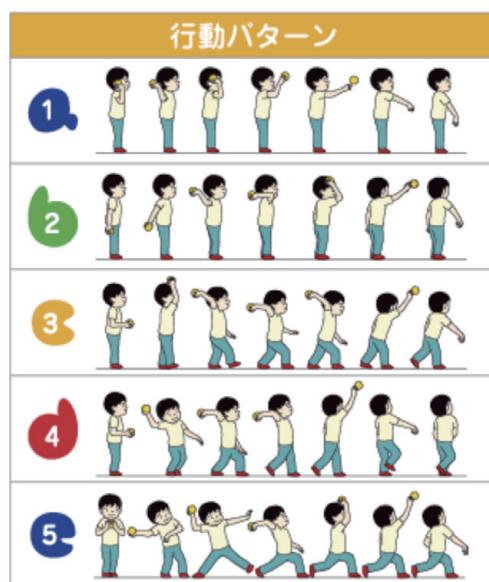
投げる ポール投げ



幼児期においては投げる動きは、肘を曲げ伸ばすと言うパターンが多く見受けられます。その後、成長の合わせて多様な動きを経験して身につけることにより、下半身で作り出したエネルギーを上半身を通じてボールに伝える

動き、つまり“投げる”と言う動きがスムーズに出来るようになります。

「投げる動き」の発達段階の特徴

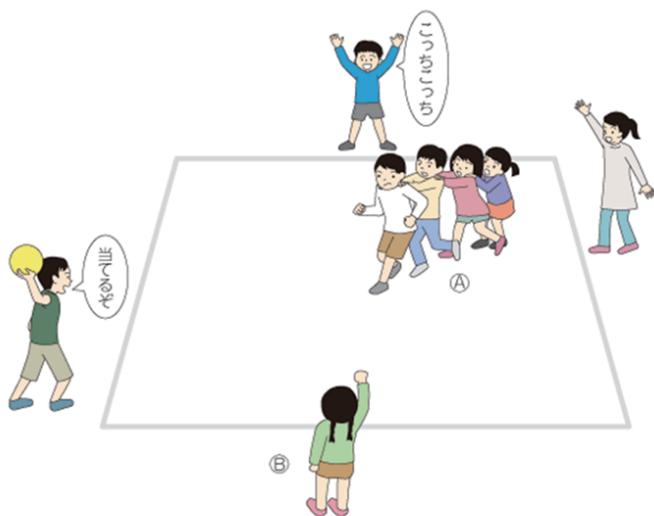


体力向上の基礎を築くための幼児期における実践活動の在り方に
関する調査研究報告書(文部科学省, 2011)をもとに作成

今回はそんな“投げる”動きを取りいれたACPのプログラムをご紹介いたします。今回ご紹介するプログラム以外にも多くのプログラムが日本スポーツ協会の特設サイトに掲載されています。QRコードを読み取りぜひ単位団の活動に取り入れてみてはいかがでしょうか。



ムカデドッジボール



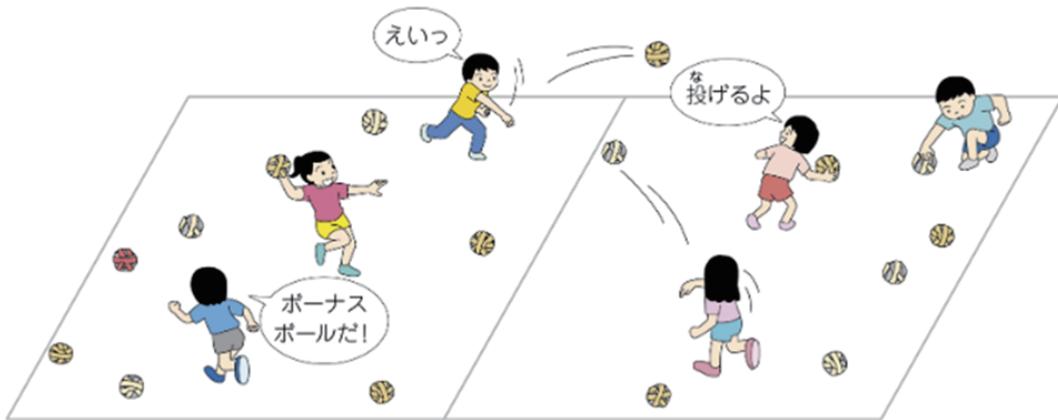
遊び方

- ① 6m四方のコートを描く。
- ② 4人グループを2つ(AとB)つくる。Aはコートのなかに入り、先頭を決めて、前の人の肩に手をおいて列をつくる。
- ③ Bはコートの外に出て、パスをつなげながらAの一一番後ろの子にボールを当てる。
- ④ Aは一番後ろの子以外にボールが当たってもセーフ。
- ⑤ 両方のチームが実施し、短い時間でボールを当てたチームが勝ち。列の手が離れたら、ボールが当たったことと同じにする

<気をつけること>

◆顔はねらわないようにしよう。 ◆列の子は上着を引っ張らないようにしよう。

爆弾ボール



遊び方

- ① 四角いコートを作って、真ん中に線を引いて仕切れます。
- ② ボールをコートの両端にばら撒きます。
- ③ 2つのチームがそれぞれ自分の陣地に立ち、向かい合います。
- ④ スタートの合図で自分の陣地にあるボールを取りに走り、助走をつけて相手の陣地にボールを投げ入れます。
- ⑤ 終わりの合図で投げるのをやめます。

<気をつけること>

◆「手に取るボールは1つだけ」など、ルールを決めて遊びましょう。

手続きはお済ですか？

指導者資格の移行



● 旧認定員資格保有者の 資格移行期間が近づいています

2020 年 4 月より、スポーツ少年団の指導者制度が改定され、「指導者」として登録をするすべての方が更新・登録制の JSPO 公認指導者資格（JFA または JBA の C 級以上のライセンスも含む）を保有することが義務付けられました。

これまで、スポーツ少年団では「認定員」資格を保有していた方が多くいらっしゃいますが、この認定員資格を取得した際に同時に「JSPO 公認スポーツリーダー」の資格も取得されています。このスポーツリーダーの資格は永年資格となっており、登録・更新制の資格には該当しません。そのため、2024 年度以降も、「指導者」として登録をされる方は JSPO 公認指導者資格（JFA または JBA の C 級以上のライセンスも含む）の取得が求められます。2023 年年度までは資格の移行期間として 2019 年度に認定員として登録があった方に関しては、資格の取得をしていくても指導者登録が可能となっておりましたが、いよいよ、移行期間の終了が迫って参りましたので改めてご案内いたします。

なお、今回のご案内は「旧認定員」の方々向けのご案内となります。

JFA または JBA の C 級以上のライセンス保有者または既に JSPO 公認指導者資格をお持ちの場合は資格の移行手続きは不要となります。

● 移行手続きのポイント

ポイント 1

「旧認定員」のみなさんは「スポーツリーダー」の資格を「コーチングアシスタント」に移行する

ポイント 2

移行手続きは個人で「JSPO 指導者マイページ」より行う。

ポイント 3

認定証の再発行は行っていませんので、紛失している場合はスポーツ少年団登録システムの資格情報を画面キャプチャしたもので代用可能です。

ポイント 4

2024 年度 4 月のスポーツ少年団登録に資格移行を間に合わせるためには 2023 年 11 月 30 日までに移行申請を完了させる必要があります。

ポイント 5

登録に際しては 4 年間の資格登録料として 10,000 円、初年度に関しましては初期登録手数料として 3,300 円の合計 13,300 円が必要となります。

詳細に関しましては以下の QR コードでそれぞれの情報をご確認ください。



コーチング
アシスタントへの
移行手続き



資格移行
手続きマニュアル



指導者制度
改定について



指導者マイページ

令和5年度事業計画

1. スポーツ少年団交流大会

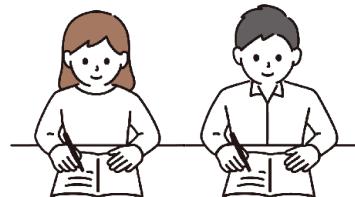
- (1) 埼玉県スポーツ少年団種目別大会の開催(13種目) [日程] 令和5年4月～令和6年3月
- (2) 埼玉県スポーツ少年団大会(野外活動大会) [日程] 令和5年9月9日～10日

2. 第50回日独スポーツ少年団同時交流事業

- (1) 派遣事業 [日程] 7月27日～8月13日 [場所] ドイツ連邦共和国 [人数] 指導者: 1名 団員: 2名
- (2) 受入事業 [日程] 7月28日～8月3日 [受入本部] 小鹿野町スポーツ少年団

3. 指導者養成・研修事業

- (1) スタートコーチ(スポーツ少年団)養成講習会 (県本部開催: 1コース 市町村開催: 19コース)
- (2) スタートコーチインストラクター研修会
 - ア 日本スポーツ少年団主催の研修会 [日程] 10月～11月
 - イ 埼玉県スポーツ少年団主催の研修会 [日程] 調整中
- (3) 埼玉県スポーツ少年団登録者研修会(仮)(旧指導者現地研修) [日程] 調整中
- (4) 運動適性テストⅡ普及研修会 [日程] 10月29日(予定)(他、1回調整中)
- (5) アクティブ・チャイルド・プログラム普及研修会 [日程] 11月3日(他、1回調整中)
- (6) 研究大会等への派遣
 - ア ジュニアスポーツフォーラム [日程] 6月18日
 - イ 関東ブロックスポーツ少年団指導者研究協議会 [日程] 11月4日・5日



4. リーダー養成・研修事業

- (1) シニア・リーダースクール派遣 [日程] 8月9日～12日
- (2) ジュニア・リーダースクールの開講 [日程] 8月4日～6日
 - ア (中学生対象) ジュニア・リーダースクール(県本部開催) [日程] 8月4日～6日
 - イ (小学生対象) ジュニア・リーダースクール [助成(補助)事業]
- (3) 全国スポーツ少年団リーダー連絡会 [日程] 11月12日
- (4) 関東ブロックスポーツ少年団リーダー研究大会 [日程] 10月21日～22日
- (5) 埼玉県スポーツ少年団リーダー会の育成

5. スポーツ少年団活動活性化補助事業

- 市町村スポーツ少年団主催の下記事業に対し、運営費の一部を助成
※いずれの事業も対象期日は令和5年4月1日～令和6年3月31日
- (1) 地域活性化事業
 - (2) 登録指導者研修事業
 - (3) 母集団研修事業
 - (4) リーダー育成事業



6. 国内交流大会派遣事業

- (1) 全国スポーツ少年大会(リーダーズアクション2023) [日程] 8月4日～7日
- (2) 関東ブロックスポーツ少年大会(野外活動の大会) [日程] 9月16日～18日
- (3) 全国スポーツ少年団軟式野球交流大会 [日程] 8月3日～6日
- (4) 全国スポーツ少年団剣道交流大会 [日程] 令和6年3月29日～31日
- (5) 全国スポーツ少年団バレーボール交流大会 [日程] 令和6年3月28日～31日
- (6) 関東ブロックスポーツ少年団競技別交流大会 [日程] 7月16日～7月30日

7. 埼玉県スポーツ少年団表彰

- [日程] 令和6年2月18日

8. 日本スポーツ少年団顕彰

- 伝達式…埼玉県スポーツ少年団表彰において実施をする

9. 「スポーツともだち仲間たち」の発刊

- [発刊時期] 5月、9月、1月

スポ少フォト 募集中！

表紙等、本情報誌に掲載する写真を募集します。

応募方法と注意点は以下の通りです。たくさんの応募をお待ちしています。



応募テーマ

スポーツ少年団活動

応募期間

令和5年8月31日(木)まで

応募方法

撮影した写真データを、県スポーツ少年団事務局宛に電子メールで送付してください。
なお、メール本文には、以下タイトルと①～④の必要事項をご記入ください。

メールタイトル **スポ少フォト申し込み**

必要事項 ①市町村名 ②単位団名 ③団代表者氏名 ④写真タイトル

県スポーツ少年団事務局

sjsa@saitama-sport.org

- ・応募する写真データの容量は3メガバイトまでとしてください。
- ・写っている人物に許可をとってから応募してください。
- ・掲載が決定した写真および我が団自慢の応募者にのみ、掲載決定のご連絡をさせていただきます。
- ・応募写真等の著作権は埼玉県スポーツ少年団に帰属し、「情報誌：スポーツともだち仲間たち」に使用させていただきます。

すべての
スポーツに
エールを

スポーツくじの収益は、
日本のスポーツを育てるために
使われています。



くじを買うはエールになる

